

熊本県人権子ども集会

伝えよう ～話す勇氣、気づく力～

「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会」が10月11日(土)、熊本市のパークドーム熊本で行われ、県内の小・中・高校生や関係者など8,000人を超える人が参加しました。県教育委員会主催で毎年開かれており、今年で18回目。中・高校生の子ども実行委員会が中心になり開催されました。



まず、「自分の意見を伝えることが大切であり、自分の本当の気持ちを伝えない限り相手に分かってもらえない」と集会への決意が述べられました。

児童生徒の体験・活動報告(県内小・中・高校生から)

- 多良木町立黒肥地小学校の児童は「どんな小さなことでも『ありがとう』と感謝の気持ちを示すことが大切」と報告しました。
- 熊本聾学校中学部の生徒は、「聞こえる人とコミュニケーションを図るための工夫が必要。私たちに対しては、正面を向いてゆっくり話すなど、多くの人に理解してもらいたい」と発表しました。
- 荒尾高校の生徒は「中学生の時、友人関係のトラブルから遅刻が多くなったが、高校生になって先生や学習会の仲間たちの励ましによって立ち直ることができた」と感謝を込めて報告しました。

全体活動では、手話を交えて「Believe」(作詞・作曲：杉本竜一)を大合唱。会場全体が一つになりました。その後、「言葉を大切に、差別やいじめをなくす“本当の仲間”になろう」との集会アピール文の提案があり、大きな拍手で採択され参加者全員の誓いとなりました。

一人一人の人権が尊重される社会の実現を目指すため、私たちにできることから行動を起こさなければならないと強く感じた1日でした。

益城町教育委員会

益城町の事故・事件の発生状況

事故・犯罪区分	発生状況(件)			
	町内		御船署管内	
	10月中	累計	10月中	累計
人身事故	11	104	23	229
物損事故	55	663	160	1696
空き巣	0	11	0	17
自販機狙い	0	0	0	1
万引き	0	3	5	35
オートバイ盗	0	2	0	6
自転車盗	0	3	2	26
車上狙い	2	11	6	40

件数は平成26年10月末現在

問い合わせ先

役場総務課防災係 ☎ 286-3111

御船警察署・御船地区防犯協会連合会

☎ 282-1110 / ☎ 261 ~ 264

つ迫した生活困窮の相談が寄せられています。当事者の年齢は8歳から90歳と幅広く、50代、60代の人が増加傾向です。上益城5町では、県センター同様に問題解決の強化を図るため、専門の相談員を配置し、毎月弁護士・司法書士の無料法律相談会を開いています。あんなこと、こんなこと、ちよつとだけ聞いてみたい、でも構いません。「いつでも、どこでも、身近な町で！」相談ください。

問い合わせ先

役場住民生活課住民係 ☎ 286-3112

(上益城広域消費生活相談室)

①ある農家の避難壕図

(馬水の秋月クメ女談)

木山は戦争末期の主戦場で、薩軍の略奪など戦火から財産や食料を護るため家々は各自に避難の手立てをしましたが、この図は本格的な避難壕の例です。

畠の周りには竹藪の根が畠に侵入するのを防ぎ豪雨時の溢水を防ぐ遊水地としての深い堀が各所にあり、通常は乾燥に弱い里芋を栽培したので芋堀と呼んだが、この堀を利用して食料や財産を隠し雨露を凌ぎました。

まず藪陰の芋堀の中腹にスギナリ(杉丸太)を敷き床を作り、その上にネコク(猫伏せ)を敷き、その上にヒヨウモン(俵物)米、麦、粟、大小豆(俵の俵)を並べ、またその上にネコクを敷き俵を隠し、その上に畳を敷いて居住性を良くし、掘って立て小屋を建て風雨を凌ぐといった建物です。これは秋月家のもので、同家は富農であったためこのようにできたものですが、一般には緊急避難のため鍋釜と当座の食糧・被服類・日用品を携え付近の竹林や林の中に避難しました。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策